

2024年度 遺伝子組み換えナタネ自生調査報告

生活協同組合あいコープみやぎ 辻朗子

採取場所	調査数	ラウンドアップ耐性	バスター耐性
全て宮城県内			
石巻市 三河町など石巻港付近	6	3	0
仙台市、利府町、大和町、塩釜市、七ヶ浜町	8	0	0
大崎市（古川、鹿島台、田尻）	4	0	0
涌谷町	1	0	0
大郷町、大和町	5	0	0
合計	24	3	0

4月末までに検査したのは24検体。今年の試験紙は線が見やすかった。ここ数年は全国的な調査結果と同じようにバスター耐性が見つかる傾向にあったが、今年度の宮城県内の陽性検体は3検体ともラウンドアップ耐性だった。

- ・**石巻港**…昨年、調査日にナタネが見られなかったため例年より一週間遅くして開催。実際にナタネが自生している様子を確認の上、抜き取り、事前に見つけて採取していたナタネと合わせて簡易検査で陽性反応が出るのを見ることができた。
- ・**仙台港**…飼料会社の周辺道路を調査。自生しているのはハタザオガラシのみ。

4/10 仙台港ナタネ調査



今年も全組合員にナタネ調査のチラシを配布し、組合員・理事・一般の方も参加して合計10名での調査となりました。この活動の意義やこれまでの調査結果などをお話しながら一緒に簡易検査を体験、数日前に石巻で見つけた陽性検体も実際にお見せしました。仙台港にあるのはハタザオガラシのみなので、農産産地「大郷町」で採取してきた検体でセイヨウナタネと在来ナタネの見分け方のレクチャーも行いました。

4/21 石巻工業港・JA 全農北日本くみあい飼料周辺



このセイヨウナタネは簡易検査でラウンドアップ耐性ナタネと確認。



今年度の試験紙は二本線がバッチリ見やすい！

石巻工業港のナタネ調査マップ



青マーク：ラウンドアップ耐性ナタネ

紫マーク：バスター耐性ナタネ（今回確認されず）

黄マーク：非遺伝子組み換えナタネ（下の写真のセイヨウナタネ）



2024 年度あいコープみやぎナタネ調査マップ→

PCR 検査を依頼したセイヨウナタネ（結果：陰性）

立ち入り禁止のフェンス沿いにて発見。
周りはみんなハタザオガらし



拡大→



一本だけセイヨウナタネ発見！
これが方が GM だったらどれだけ汚染が広がるのか...

なのはな生協 2024年 GMナタネ自生調査報告



なのはな生活協同組合 山本 靖子

なのはな生協、生活クラブ茨城と遺伝子組み換え食品いらない！キャンペーンとの合同調査

- ・なのはな生協組合員 2名
- ・なのはな生協事務局 4名
- ・遺伝子組み換え食品いらない！
キャンペーン 3名
- ・生活クラブ茨城 6名
- 合計 15名



輸入される GM 作物(大豆、トウモロコシ、ナタネ、ワタなどの種子)は陸揚後、工場まで輸送されて食用油などに加工されますが、途中でこぼれ落ちます。GM ナタネは道路脇などに自生し、ブロッコリーなどの作物や野生植物との交雑も確認されています。今年も全国で GM ナタネの自生が確認されました。GM ナタネが全国で自生している実態から、GM 作物の生物多様性への影響、遺伝子操作の問題点を知り、考え、行動しましょう。



鹿島港 2024年 4月15日(月)

鹿島港の飼料工場周辺の道路を調査

幹線道路や飼料工場周辺を歩いて…



×GMナタネを採取

幹線道路を歩きながら調査

神栖駅周辺で咲いていた GM ナタネ

近くで会場を借り検査



参加者全員で学習会を開催

7検体中1検体が陽性

識別No.	採取地	植物種(推定)	RR	LL
1	鹿島港(神栖市東深芝4-1)	西洋ナタネ	—	—
2	鹿島港(深芝:スーパーホテル、上組裏手)	西洋ナタネ	—	—
3	鹿島港(深芝:関口工建の先)	西洋ナタネ	—	—
4	鹿島港(深芝:小野建の前)	西洋ナタネ	—	—
5	鹿島港(深芝:サンキョー向い交差点)	西洋ナタネ	—	—
6	鹿島港(深芝:サンキョー向い交差点)	西洋ナタネ	—	—
7	鹿島港(深芝:神栖駅、反対側歩道)	西洋ナタネ	+	—

なのはな生協の取り組み

- ・1997年には 遺伝子組み換え食品反対・表示の義務付け署名活動
- ・1998年には 遺伝子組み換え食品を扱わない方針を確認し、肉や卵の飼料に関しても順次、非遺伝子組み換えにいたしました。
原材料に記載されているナタネやトウモロコシも分別してあるかどうか確認。
- ・2000年には 遺伝子組み換えイネの開発・作付・輸入販売反対署名活動
- ・2001年には 遺伝子組み換えコメ(イネ)いらない署名活動
- ・2007年には 遺伝子組み換え表示の法改正を求める署名活動
- ・2014年から GMナタネ自生調査を開始
- ・2015年から GMOフリーゾーン全国交流集會に参加
- ・2022年には ゲノム編集トマトを小学校に無償提供する計画の撤回を求める署名

2024年度 パルシステム東京 遺伝子組み換えナタネ自生調査報告書

生活協同組合パルシステム東京

1. 「遺伝子組み換えナタネ自生調査」への参加目的

パルシステム東京では、組合員に遺伝子組み換え作物の野生化について知っていただく取り組みとして、2020年度から本調査に参加し、今年度で5年目になります。

東京都内にはGMナタネの荷揚げ港や製油工場がないため、自生するGMナタネが見つかる可能性は低いですが、組合員参加による調査を継続することにより、全国でGMナタネが自生する現状、GM作物の生物多様性への影響、市民による調査の大切さを伝えていく活動を進めています。



2. 活動内容

(1) 調査活動

昨年度まで、組合員とともにGMナタネを調査する企画を実施していましたが、より多くの方に本問題を知っていただくため、遺伝子組み換え食品の学習会と組み合わせ実施しました（4月13日オンライン開催）。

第1部では、農産物検査センター所長の八田純人氏から「遺伝子組み換え食品の基礎」、「GMナタネ自生調査」についてお話しいただいた後、第2部で、GMナタネ検査を実施。事前に採取したナタネを参加者と一緒に調査しました。この結果、

昨年度の2.5倍の組合員にご参加いただき、広く情報発信をすることができました。

合わせて、昨年同様、企画に参加しない組合員が自身で調査し、報告書を提出いただく形式も実施しました。



(2) 情報発信の活動

調査や学習会に参加しない組合員にもGMナタネの問題を知っていただくため、食の安全に関する情報誌「食べものナビゲーター」（発行部数25万部、HP等でも紹介）にて、GMナタネ自生の問題や本調査について紹介しました。（情報誌は次ページを参照）

3. 検査結果

パルシステム東京調査結果概況

	検体数	ラウンドアップ耐性	バスタ耐性	両耐性	陽性数	陽性率
2020年	5	0	0	0	0	0%
2021年	19	0	0	0	0	0%
2022年	46	0	0	0	0	0%
2023年	15	0	0	0	0	0%
2024年	11	0	0	0	0	0%

4. 総評

(1) 調査結果について

2024年度は11検体の調査を行い、全て「陰性」という結果となりました。遺伝子組み換えナタネ自生調査の取り組みから5年が経ち、96検体の調査を行いましたが、すべて陰性という結果です。

(2) 企画について

八田様の講演で遺伝子組み換えの問題、全国でGMナタネが広く自生している現状についてしっかりと学んだうえで検査をしたことで、より理解が深まったと感じています。親子での参加も多く、お子さんが一生懸命検査をする様子が印象的でした。今回のような、「遺伝子組み換え」についての学びの機会が、組合員の安全安心な商品選択に繋がっていくと感じました。

(3) 今後の取り組みについて

今後もGMナタネの自生や遺伝子組み換えの問題を広く周知・広報していくことが大切だと感じたので、調査を継続するとともに、情報誌やホームページなどでの発信にも力をいれていきます。

「今さら聞けない」「ちょっと気になる」…
食についての基本のキを、毎月1回紹介します。

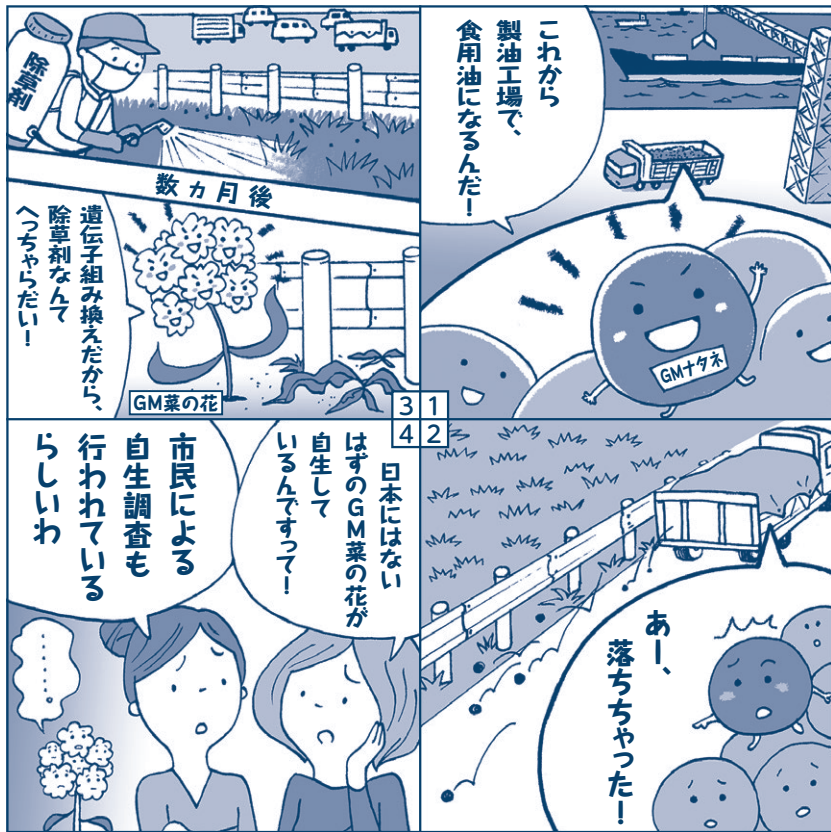
食べものナビゲーター

FOOD NAVIGATER

3月

vol.165 2025年2月17日発行

遺伝子組み換えナタネ自生調査

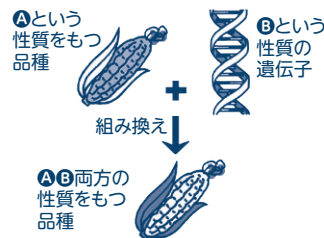


「食べものナビゲーター」はパルシステム東京のホームページでも公開
海外では、大規模農業で作業効率を上げるため、除草剤を撒いても枯れない遺伝子組み換え作物などが栽培されています。日本にはどのような影響があるのでしょうか。



遺伝子組み換えとは

生物から取り出した遺伝子を別の生物に組み換える技術です。遺伝子組み換え(以下GM[※])によって、欲しい性質が得られるため、この技術を使い、多くの食品などが開発されています。



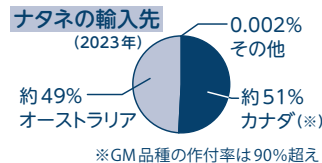
※Genetically Modified (遺伝子組み換え)の略称。

日本にはどんな作物が?

日本では、9種類のGM作物(大豆、とうもろこし、じゃがいも、ナタネ、綿実、アルファルファ、てん菜、パパイヤ、からしな)の流通が認められています。食用油やしょうゆなどの加工食品、食品添加物の原料、飼料として幅広く使用されています。



これらのGM作物は、海外で栽培され、日本にもたくさん輸入されています。ナタネも例外ではありません。



遺伝子組み換えの問題

GM作物は、生育中に飛んだ花粉が他の遺伝子組み換えでない作物と交雑し、GM作物が広がってしまう可能性が指摘されています。他にも以下のような問題があります。

安全性への懸念

安全性の評価は簡易的な審査だけ。長期的な身体への影響はわからない部分も。



大企業による種子の独占

一部の多国籍企業がGM種子と除草剤をセットで販売。種子の独占が進む問題も。



GMナタネ自生調査とは?

近年、日本で栽培されていないはずの、GMナタネが幹線道路沿いなどでみつかっています。



この実態を把握してGM作物の拡大を防ぐため、全国の生協や市民団体が参加する消費者団体「遺伝子組み換え食品いらない!キャンペーン」では、20年にわたって「遺伝子組み換えナタネ自生調査」を続けています。

パルシステム東京も当団体に加盟し、2020年から調査に参加。除草剤への耐性を調べる試験紙を使って、組合員と一っしょに調査を行っています。



菜の花を事前に採取。試験紙を使って簡単にGMナタネかどうか検査できます。

どうして市民調査を行うの?

国でも調査は行っていますが、市民調査を行うのは次のような理由があります。

①生活に密着したデータが得られる

遺伝子関連の研究・開発などは閉鎖的な空間で行われることが多いなか、市民による調査は、生活に密着した信頼性のあるデータが得やすいといわれます。



②団体同士の連携につながる

市民団体が連携し運動として広がることで、GMナタネの問題が周知され、問題解決の可能性が広がります。

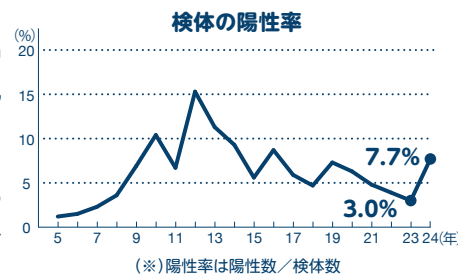


2024年度の調査報告

全国の調査結果

2024年度は全国で690検体中53検体のGMナタネ(陽性)が発見され、23年度の22検体から大きく増加しました。

陽性率[※]の推移をみると、増減はありますが、毎年、一定数のGMナタネが確認されていることがわかります。



この調査結果は毎年、報告会などで行政(農水省・環境省など)や関係事業者へ伝え、汚染拡大の防止策をとるよう求めています。

パルシステム東京の調査結果

パルシステム東京では、都内で採取した菜の花を中心に検査しましたが、過去5年間の調査でGMナタネの自生は確認されていません(計96検体)。

検査年	2020	2021	2022	2023	2024
検体数	5	19	46	15	11
陽性数	0	0	0	0	0

しかし、輸入港がない県でも輸送時に幹線道路沿いに種が落ち、自生する例もあります。今後も継続的な調査を行い、各地の実態を伝えていく必要があります。

2025年「遺伝子組み換え食品学習会」のご案内

農民連食品分析センター所長・八田純人さんをお招きし、「遺伝子組み換え食品」についての学習会を開催。学習後は身近な菜の花(ナタネ)がGMかどうかをいっしょに検査します。

今年はオンラインと会場での同時開催!

[日時] 3月8日(土) 10:00~12:00

[会場] パルシステム東京新宿本部2階第1会議室(オンライン併用)

※菜の花は事前に採取をお願いします。事前採取が難しい方は視聴だけでも大丈夫!



お申し込みはこちら▼



八田 純人氏